

令和5年度第2回江別市経済審議会会議録（要旨）

日時	令和5年9月29日（金）10:00～11:30
場所	江別市民会館（37号室）
出席者（16）名	会 長/井上誠司 副会長/藤本直樹 委 員/森邦恵、伊藤環、千葉幸子、鈴木貢、中野亮二、佐々木尚弘、岸本佳廣、若狭洸介、 奥村幸広、青山孝広、西純一、岡村恵子、光永大希、小原愛香
事務局（10）名	経済部長、経済部次長、商工労働課長、農業振興課長、商工労働課主査、農業振興課係長（3名）、 ほか2名
欠席者（1）名	委員/杉野邦彦
傍聴者（0）名	—
諮問事項	（1）第5次江別市農業振興計画の策定について

会議録

会長	開会のことば
部長	委嘱状交付・挨拶
会長	会議成立報告
会長	本日の議事は、お手元の次第のとおり「第5次江別市農業振興計画」に関する諮問が1件ございますので、事務局から説明をお願いいたします。
商工労働課長	はじめに「第5次江別市農業振興計画」の策定にあたり、江別市経済審議会に対しまして、経済部長より諮問書を提出させていただきます。
経済部長	諮問書の受け渡し
会長	次第の3、諮問事項の「第5次江別市農業振興計画の策定について」事務局より説明願います。

<p>農業振興課長</p>	<p>第1章についてご説明します。 「1計画策定の趣旨」については、農業をとりまく情勢の変化に対応しつつ、地域の実情に応じた総合的な農業振興施策を展開していくために、本計画を定めるという趣旨を記載しております。 「2計画の内容と計画期間」ですが、昨今の経済情勢や国の政策の変化が著しく、農業の転換点を迎えているとも言えることから、2024年度（令和6年度）から5年間の2028年度までを計画期間としております。 「3計画の位置づけ」としまして、国と道の方針を踏まえつつ、現在策定中であります、第7次江別市総合計画の基本方針「都市近郊型農業の推進」に合わせ、さらに、下段に記載しております各関連計画と整合性をとりつつ、5年間の農業施策の方向性を定めるという位置付けで、第5次江別市農業振興計画を策定するものであります。 「4農業とSDGs」として、この間の大きな動きであります、「持続可能な開発目標」いわゆるSDGsについて新たに記載しております。SDGsとは、世界中で起こっている環境問題、差別・貧困・人権に関する問題などを、令和12年までに解決していくことを目指すための目標であり、第7次江別市総合計画においても、SDGsの目標達成を意識した計画としていることから、農業振興計画もこの考え方に従って策定することとしております。</p>
<p>会長</p>	<p>只今の説明に対して、ご質問、ご意見等ございましたら、お受けしたいと思えます。</p>
<p>各委員</p>	<p>なし</p>
<p>農業振興課長</p>	<p>第2章についてご説明します。 「1江別市の農業の概要」であります、当市の地理や農畜産物の特徴、市に関連する組織、施設について記載したものであります。 「2江別市の農業の現況」であります、(1)担い手関連として、現在の農家戸数や新規就農者数など、農業従事者に関連した状況の推移について9ページまで記載しております。記載にありますとおり、江別市においても、総農家戸数や農業就業人口は依然として減少傾向にある一方、平均年齢は上がっているという傾向が続いています。10ページからは、(2)営農関連として、経営規模や耕地面積、販売実績など、農業経営に関する情報を12ページまで掲載しております。13ページは、その他として、鳥獣被害の状況とグリーン・ツーリズム関連施設の利用者数を掲載しております。</p>
<p>会長</p>	<p>只今の説明に対して、ご質問やご意見等ございましたら、お受けしたいと思えます。</p>
<p>中野委員</p>	<p>離農や廃業に伴う市内の耕作放棄地の状況を教えていただきたいです。</p>
<p>農業振興課長</p>	<p>今の状況ということでお話をさせていただくと、確かに耕作をしていない農地も一部ありますが、農業者の皆様のご努力により、基本的には維持されている状況です。逆に言うと、一戸当たりの耕地面積が増えているのですが、今のところ維持されているようですので、結論として耕作放棄地は広がっていないという認識でございます。</p>
<p>会長</p>	<p>現在は耕作放棄地があまり出ていないということですが、今後の見通しはいかがでしょうか。</p>
<p>農業振興課長</p>	<p>今後に関しましては、農家数や戸数または担い手の総数自体は減っていく見込みです。ただ、現在、国の「人・農地プラン」という施策があり、来年度までの中で新たに「地域計画」を策定してまいりますが、各地域で、今後そういった農地の取り扱いをどうしていくかや、高齢者で営農が難しいといった話が出てくるかと思えます。その辺については地区毎でお話いただく中で、こういった形で維持していくのかを進める予定でございますので、まずその地域の方のご意見を賜った中で、傾向を分析していきたいと考えております。</p>
<p>会長</p>	<p>その他ご意見、何かございますでしょうか。</p>

伊藤委員	13ページのグリーン・ツーリズムについて、関連施設の利用者数は「7,000人増加」とありますが、どこでどのようなことをやっているのかを教えてください。
農業振興課長	当市の農村滞在型余暇活動機能整備計画書がグリーン・ツーリズム関連施設の計画を表したものとなっており、関連施設には、貸し農園や農作業体験ができる施設、野菜直売所、農家レストランなどがあります。このようなものを、農業地域の中で作っていく部分について定めています。直近で7,000人増えている部分ですが、西野幌にソフトクリーム工房ができて、そこでの交流人口の増加と、市の施設である美原地区にある「えみくる」で施設の改修をしまして、少年野球場を建設しています。その利用者も増えているということで、結果として増加している状況となっています。
会長	その他、何かございますでしょうか。
森委員	6ページについて「乳用牛や肉用牛など多様な畜種が飼育されて」と記載がありますが、第4次農業振興計画では「乳用牛は4,000頭以上、肉用牛は800頭以上」となっていました。多様な畜種というのは乳用牛や肉用牛の中の種類なのか、それとも11ページにあるとおり肉用牛に鶏も含めた畜産全体の、牛や鶏といった種類を指しているのかを教えてくださいたいです。また、「頭数」から「畜種」に書き方を変えた理由もお知らせいただきたいです。
農業振興課長	前段の畜種の部分については、11ページの下段にあります肉用牛、乳用牛、鶏の主要家畜の区分を指します。また、資料の書きぶりについてですが、前回の計画から文を変えて、農家戸数を載せたということもございますので、表現をこちらの方は畜種というように変えさせていただいた案としています。
森委員	「多様な」がどこに係っているのかわかるような表現になれば良いと思いました。
会長	その他ご意見等ございますでしょうか。
岡村委員	8ページについて、2018年から年々新規就農者が減っていますが、新規就農者のうち、女性が今までいたことがあるのかどうか、また問い合わせがあるのかといった状況について教えてくださいたいです。
農業振興課長	8ページの上段にある表4の新規就農者数について、基本的には市の関連施設である「道央農業振興公社」で研修を終えて当市で就農した場合を含めて人数を掲載している状況です。直近の部分ですが現在は、こういった研修に入る際には、幸いその中でご結婚をされて、ご夫婦で就農されている例も、当市においてもあります。年度別の内数のところは今、お持ちしていませんが、少なからず女性の方も就農されている例はございます。
岡村委員	夫婦ではなく、本当に単独で女性就農者として来ている方はいらっしゃるのでしょうか。
農業振興課長	最近の新規就農者においては、女性お1人でという方はおりません。
会長	岡村委員のご意見の主旨は、女性単独での就農も推進すべきだということではないかと思います。

会長	続いて第3章のご説明をお願いします。
農業振興課長	<p>「1 江別市の農業の目指す姿」として、第7次総合計画の基本目標である「産業が地域に根ざす、活力とにぎわいのあるまち」を目指し、農業者や行政だけではなく、他分野との連携体制のもと、第5次農業振興計画の方向性に基づいて推進・展開をしていこうというもので、あわせてイメージ図を載せております。「2基本方針の体系」としまして、4つの展開項目と、それぞれの方向性を整理したものであります。展開項目については、江別市の農業を支えるために恒常的に取り組む必要がある項目として位置付けるものであり、次ページ以降で、展開項目ごとに進めるべき方向性を整理しております。方向性は、先ほどご説明しました「江別市の農業の現況」や、「農業者の意識調査結果」などの各種データを元に「現状と課題」を整理し、「今後の方向性」を示したものであります。18ページから25ページにかけて、展開項目(1)農業経営の安定化の実現に向けた方向性として、生産性の高い安定した農業経営を推進するため、「①担い手の育成・確保」、「②農地集積の促進」、「③農業労働力の確保」、「④女性の経営参画等の推進」、「⑤防疫対策の推進」、それから、今回新たに追加します「⑥デジタル技術の活用」について、それぞれ記載したものであります。</p>
会長	今の説明について何か質問等はございますでしょうか。
中野委員	まず、アンケートについて、7ページの中で、2020年の農家の総戸数が335戸となっていて、17ページのアンケートの配布先数で437戸と、100戸程度増えています。この理由を教えてくださいたいと思います。
農業振興課長	アンケート意識調査の結果は40ページ以降に記載しており、ご指摘のとおり配布数は437戸ということになっています。この差分につきまして、まず、2020年の総戸数の数字は、農水省で5年に1度行われる農林センサスの結果がベースとなっています。今回の農業者意識調査については、幅広く、いわゆる農業をされていると思われる方に調査をお願いする形となっております。前回と同様に、関係団体であるJA道央の江別営農センターにご協力をいただき、江別市内で営農されていると思われる方にも調査をお願いした結果、配布数が総数で437戸となりました。
中野委員	<p>21ページの農業労働力についてですが、今、どの業種でも人手不足が問題となっており、農家の方も、パートが集まりづらいというお話を聞いたことがありますので、募集をかけた時の応募状況や過去に試験的に実施した農家のアルバイトとして大学生を起用した際の結果も教えてください。</p> <p>また、市内の農業における外国人労働者の受け入れの現状と今後の方針について教えてくださいたいです。</p>
農業振興課長	<p>JAさんを中心に、求人情報誌といったフリーペーパーなど様々な媒体を使って募集していると聞いておりますが、登録者数は数字としてわかっているものの、応募状況等の細かい数字の部分については、なかなか把握できないとも聞いています。直近の動きとしては、アプリでその日その時間だけというようなパートの受付も進めているようです。アルバイトとして大学生を起用した件についてですが、新型コロナウイルス感染症の中で、市内の大学生の働き口と農家さんの労働力の確保が必要であるという中で、2年間実施した経過がございます。最初の年は、一定程度長い時間で働く条件で進めましたが、大学生ですと講義の関係で長時間来れないという事情がありまして、2年目は短時間の部分も含めて進め、内容としては交通費に充てていただくような単価のもと、支給した実績はございます。想定していたよりも、短時間での勤務希望がとても多く、雇用する側としては長い時間働いて欲しいという意向があり、現状ではニーズに合わせられなかったと考えております。</p> <p>外国人の労働者の部分について、市で正確な数字は把握していませんが、ただ、一部の市内の農業生産法人においても、外国人労働者が就農されているということはお聞きしております。ただ人数や進め方についても、まだ、こちらでは正確に把握していませんので、改めて状況を聞き取りながら進めたいと考えております。</p> <p>今後の労働力の確保について、全体の新規就農者もちろんのこと、そういった作業の部分での労働力の確保は課題となっておりますので、アプリといった新しい媒体を使った募集方法を関係機関と協力しながら進めたいと考えています。それでも作業的に賄えない部分については、スマート農業といった技術も各農家さんで導入されていますので、それらを同時に進めたいと思っています。</p>

中野委員	外国人労働者につきまして、農業の現場の方からは積極的に受け入れたいといった話はないのでしょうか。
農業振興課長	外国人労働者に限らず、新しく人を雇うという部分についてですが、教えるといった手間もありますので、農家さんが対応できるのであれば受け入れているというようなお話は聞いています。法人であれば多数のスタッフがいますので、指導の部分について対応可能かと思いますが、従事者2～3人の家族経営では、一般に出面さんと呼ばれるパートさんについても、なかなか指導が難しいということもお聞きはしていますので、各農家さんの考えのもと進められていると認識しています。
会長	アンケート配布先について中野委員から質問がございましたが、それに関する意見を述べさせていただきます。農家数に関しては、統計等によって該当者が異なってきます。センサスの総農家を対象にしたのか、農業委員会の名簿記載者を対象にしたのか、農協組合員を対象にしたのか、明確な説明ができれば中野委員の疑問に答えることができると思います。また、回答数と回答率ですが、第4次農業振興計画と比べ、回答率が40.6%から30.1%と10ポイント以上低下しています。どのようなことが原因となって回答率が低下したのか、解明が必要でしょう。また、回答者数が少ないと、どのような振興策が求められているのか、十分に把握できません。回答数そして回収率の向上に、次回以降、努めていただければと思います。
会長	他に何かございますでしょうか。
青山委員	労働力の確保という話が挙がりましたが、隙間時間に働くことや働き方改革の中で、副業もかなり認められてきたという背景があり、他の地域では、副業者の方をうまく活用し、取り入れていると聞いたことがあります。この点について、江別市でもし動きなどがございましたら教えていただければと思います。
農業振興課長	具体的な検討については、現状聞いていませんが、近隣でも始まっているということですので、そちらについてはJAさんにご相談させていただく中でどのような形が良いのかを検討していきたいと考えています。
青山委員	他の地域ではそういった産業を対象にしたサポーター制度も設けられていると伺っていますので、ぜひ調査を進めていただければと思います。
会長	その他ございますでしょうか。
副会長	第5次計画のキャッチフレーズで「都市近郊型農業の推進」という、「近郊」という2文字が第4次計画から追加となっていますが、その背景や狙いがあれば教えてください。 また、25ページにあるスマート農業に関して、実際に江別市内でこういった農業付帯の情報化サービスに対応可能な事業者さんがいるのか、また実際に大学の研究者や教員、ゼミ等と連携した取り組みがどのくらい可能性としてありそうなのか、もしくはそのような取組の実績があれば教えてください。
農業振興課長	今回の計画に「近郊」を入れた理由は、東京のような大都市の中で、ビルの上で養蜂業をしたり、建物の中でプラントのような形で野菜を生産するなど、今までになかった技術を使ってやるものについて、一般的には「都市型農業」という呼称を使う場合が増えてきたこととございます。ただ当市の目指す姿は、前段の第4次計画の記載のものでありますので、今回についてはそれを「都市近郊型農業」ということで、注記をさせていただきました。 スマート農業に関してですが、今年度から情報大学の先生方にご協力いただき、ドローンを使って小麦の収穫適期を計る取組が市内で進められています。今年度の収穫は終わりましたが、今データをまとめていただいております、こういった新しい動きが出てきている状況です。

<p>会長</p>	<p>「近郊」という言葉についてですが、江別市は都市農業地帯に位置付けられます。「近郊」と言いますと都市の周辺という意味になりますので、都市農業地域で良かったのではないかと個人的には感じます。また、都市農業は様々なメリットを有しています。農村の住民と都市の住民が直面する機会が多くなり、農業に対する理解を広めやすくなるでしょう。地産地消を推進するチャンスも広がります。こうしたメリットを都市農業は有していますので、実態に合わせた形で、都市農業という言葉を活かしても良かったのかなという気がしております。</p>
<p>森委員</p>	<p>今の話について、3ページに記載のとおり江別市で独自に「都市近郊型農業」の定義付けをされているということであれば、私としては従来の農業ということ以上に、これから新たに「都市近郊型農業」というのが、江別市のキーワードになるのかなと感じます。</p>
<p>会長</p>	<p>その他、ご意見や質問ございますでしょうか。</p>
<p>岸本委員</p>	<p>意見になりますが、今後人が減ることで、人手不足や事業承継の課題が出てくるため、今まで以上に外国人労働者の力が必要になると思います。テレビなどを見ると、基本的な語学力がある人はなじむのが早く、そうなれば資格も取りやすい一方で、それが無い人は資格の取得がなかなか難しいようですので、産業全体を考えれば、江別市も基本的な日本語をしっかりと覚えていただけるような日本語学校などの拠点づくりを今後ご検討いただきたいと思います。</p>
<p>経済部長</p>	<p>現状、江別市として何か大きな施策は打ってはいない状況です。市内に国際交流センターがあるほか、教育部の方で国際交流員も置いています。産業の部分までは広がっていないというのが現実です。外国人労働者について、増やすためにという前向きな形で進むかどうかはまだ全然決まっていますが、そういう部分も含めて引き続き検討をしていきたいと考えております。</p>
<p>副会長</p>	<p>今現在、紋別市で日本語学校を設立するためのアドバイザーをやっています。その中で外国人技能実習生について全道の状況を調べたところ、コロナ禍前の2019年位のデータで、全道179市町村のうち、トップが札幌市で10位に旭川市、それ以外はほぼ漁村地域でした。紋別市は全道3位で外国人技能実習生を受け入れてきましたが、2016年から国の法律が変わって、多様な人材を長期に受け入れることができるようになったため、2016年度から国際交流推進室を市役所内に作り、マナー講習や日本語の教育といった土壌を作ってきました。そのようなベースがあると、日本語学校設立や本格的な受け入れに繋がっていきやすいですが、一方で2021年開校の中標津で民設民営の日本語学校は100名の定員に対して9名しか来ていないという事例もあります。何を申し上げたいかということ、いきなり必要になってから「できたらいいね」とか「受け入れたいね」と言っても、上手くいかないの、将来を見通した行政や地域の準備や、その取り組みが必要になりそうだということをお伝えしておきます。</p>
<p>会長</p>	<p>その他の意見となりますが、計画を新たに策定するにあたっては、前回の計画の見直しがやはり必要だと思えます。計画を立て、実践したにもかかわらず、問題点があった、あるいは目標をクリアできなかった場合、目標を見直し新たな目標を立てるなど、前回の計画との違いを踏まえつつ、検討されるべきだと思えます。そのような項目が第2章と3章の間にあっても良かったのではないかと思いますので、今回は時間的制約もあり対応は難しいかもしれませんが、次回以降はぜひこの点についてご検討いただければと思います。</p>
<p>農業振興課長</p>	<p>ただ今の会長の意見も当然だと思えます。5次計画でいきますと、38ページに計画を立てた後の進捗管理ということで、数値を現状値と目標値という形で示し、4次計画でも同様のものがございました。いずれにしても、次回素案をお諮りする時までには、担当の方で検討してまいりたいと考えております。</p>
<p>会長</p>	<p>続いて(2)地産地消の推進について事務局からお願いします。</p>

<p>農業振興課長</p>	<p>続きまして、展開項目（２）地産地消の推進として、江別の農業に対する理解を深め、食材への安心感を育むために、生産者と消費者を結び付ける地産地消を推進するための方向性として、「①グリーン・ツーリズム関連施設の整備推進」、「②食育の推進」、「③農畜産物や加工品の販路拡大」、「④都市と農村の交流推進」について、それぞれ記載したものであります。</p>
<p>会長</p>	<p>今の説明についてご意見等お受けします。</p>
<p>伊藤委員</p>	<p>グリーン・ツーリズムでやってみたいことの回答として貸し農園と記載があります。江別市でも大麻で見かけたことがあります。個人で貸している場所の面積と市で貸している場所の面積では、市の方が多いのでしょうか。</p>
<p>農業振興課長</p>	<p>平成一桁台の時は、民間の農地を利用した貸し農園はありませんでした。ただ全国的に交流人口の創出などを目的として、公営で作った例があり、市でも過去に市民農園という形で、美原地区に開設していた時期があります。その後、それぞれの民間や農家さんが持っている農地等を利用して、独自に貸し農園を行うことが増えてきたため、現在、公営はないという状況です。面積についてのデータは今持っていないため、省略させていただきます。</p>
<p>伊藤委員</p>	<p>他市では、貸し農園を借りている人のために、種から植えたり育てるなど、指導をしてくれる施設もあるようですが、江別市でもそのような取組などあるのでしょうか。</p>
<p>農業振興課長</p>	<p>以前公営でやっていた時も、同様の声が実際にありましたので、貸していただいている農地の所有者の方をお願いをして、播種から収穫までどういったことを進めたら良いのかといった指導をやっていた時期があります。ただ、貸し農園だけやられている方は、利用者の声を聞く余裕があるかもしれませんが、それ以外は、空いている土地を貸しつつご自分も営農されていて、大体が同じ時期に農作業があるため、要望への対応はなかなか難しいという声を聞いています。ただ、利用者の側としてのニーズは当然だと思いますので、改めてその辺のところは検討をさせていただきたいと考えております。また、「「まち」と「むら」の交流推進協議会」の中で、年２回、酪農学園大学さんのご協力をいただき、野菜づくり講習会を実施しており、現場ではないものの、実際に学園の中の農村の施設を見せていただきながら、教えていただくような講習会を進めていますので、併せて、検討していきたいと考えております。</p>
<p>伊藤委員</p>	<p>野菜は時期的に多く取れて余ってしまう場合がありますが、余ったものを困っている方にお渡しするような対策はできないのでしょうか。形が悪くて市場に出せないものなどの活用方法を考えるのも良いと思います。</p>
<p>農業振興課長</p>	<p>規格外品の活用に関するお話はよく出ます。ただ、生産者の立場で見ますと、規格外品が多く外に出ることで、正規品の価格に影響が出ることを気にされる方もいらっしゃいます。また、今年のように高温が続く中で、早く育ち過ぎて収穫が追いつかず、やむを得ず潰してしまったという話を聞いています。これは、どちらかという、多く取れて余ってしまうというよりも、収穫量が多すぎるとそもそも収穫ができない、ということになると思います。こういったいろいろな課題がありますので、作る側と消費者の側の意見を踏まえ、市だけでなく、実際の生産者の団体であるJAさんなどと相談していきたいと思っています。</p>
<p>会長</p>	<p>続いて（３）持続可能な農村環境づくりについて事務局から説明をお願いします。</p>
<p>農業振興課長</p>	<p>展開項目（３）持続可能な農村環境づくりについて、減農薬などの環境保全効果の高い取組などにより、推進していく方向性を記載しています。「①環境保全型農業の推進」、「②農業生産基盤の整備推進」、「③鳥獣被害対策の推進」、「④農村景観・環境の整備推進」、それから、今回新たに追加します「⑤スマート農業の推進」について、それぞれ記載しております。</p>

会長	今の説明に関しまして何かございますでしょうか。
西委員	<p>現在農家が置かれている状況についてですが、ウクライナ情勢やコロナの関係で、肥料や飼料の価格が高騰している状況で、さらに、異常な高温により、野菜や飼料用作物、ブロッコリーなどは壊滅的な状態となっています。これから農作物の収穫期を迎えますが、この気候で疫病による被害も出ており、稲に関しては登熟と同時に雨と風で倒伏の被害も受けまして、作況指数は100台、実際はそれよりも低いのではないかと予想されています。計画を立てるにあたっては、今の状態を踏まえなければ、スマート農業への初期投資もききませんし、結果的には今、水田利活用の関係で、転作の交付金が削られ、厳しい状況ですので、それを踏まえた形の中で、計画として見直しのできるのであれば見直しをかけていただければと思います。私も米13haをやりながら酪農で乳牛を130頭飼っており、酒米も作っています。ただ、少しずつ復活してきたイベントも市内でコロナやインフルエンザが増えている影響でなかなか酒の消費は伸びていません。かなり厳しい状況ですので、これからも、農家戸数はまださらに減っていくのではないかなと予測はしていますが、努力をすると同時に現状を踏まえた計画を考えていただきたいと思っています。</p>
農業振興課長	<p>直近の農業支援については、今、市と農協で考えているところでございますし、計画の部分についても、いただいたご意見をどこまで盛り込めるか検討させていただきたいと考えております。</p>
会長	<p>この計画は、基本的にアンケート調査等を通して得た農業者の皆さんの意見を踏まえて策定されたものとなります。西委員のご指摘のとおり、情勢の厳しさは異常だと思っておりますので、市としてもサポートしていくという姿勢が反映されても良いかと思っております。また、2023年から2024年にかけて江別市の農業が直面した課題がどのようなものであったかのということを、今次の計画にしっかりと明記する意義もあるのではないかと思います。厳しい状況の中で作られた計画が「これだ」ということを明記しておけば、将来、再び厳しい状況に直面した際、今次の計画を振り返ることで適切な対策が講じられる可能性があります。そうすれば後世にも活かされた計画として位置付けられると思います。</p>
会長	その他いかがでしょうか。
青山委員	<p>環境保全型農業の推進の今後の方向性の部分については情報提供ということに収まっていますが、実際のところは大学や事業者、自治体などで個別または連携して取組を行っているかと思っておりますので、この部分について今後の方向性の中にもうまく織り込んでいただけるとありがたいと思います。</p>
会長	それでは引き続き事務局からご説明願います。
農業振興課長	<p>展開項目（4）農畜産物の高付加価値化として、「①多様な生産活動の推進」、「②6次産業化の推進」、「③ブランド力の強化」、「④イメージアップ活動の推進」を記載しております。 「4計画の進捗管理」としまして、4つの展開項目に対応した成果指標を掲載しております。 なお、39ページ以降につきましては、「資料編」となっておりますが、この素案の作成に当たり、本年8月に市内農業者に対し意識調査を行い、その結果をまとめて記載したものですので、後ほどご参照ください。 また、写真の差し替えやバランス調整など、今後の審議に並行して全体の体裁を整えてまいります。</p>
会長	ご意見等ございますでしょうか。
佐々木委員	<p>ブランド化についてですが、北洋銀行ではお客様の海外進出の支援等もさせていただいております。その際に製品に北海道という名前を入れて欲しいといったご要望は非常に多く、やはり北海道のブランド力は非常に高いと思います。最近、江別の小麦もかなり全国的に注目が集まっておりますので、ぜひ指名買いされるような、ブランドを育てていただきたいと考えています。</p>
農業振興課長	<p>国の施策としても農産物の海外への輸出などを強力に推し進めていますが、それにあたっては、北海道の魅力はかなり好評価と聞いています。それについては6次化を中心とした生産者の方にもご紹介させていただきつつ、相談してまいりたいと考えております。</p>

若狭委員	意見となりますが、ブランド力というところで、物産展等をみると他のものと比べて「えぞ但馬牛」を食す機会が少ないと感じました。一般に出回っていないということが私の認識でありまして、そこを市民や道外の方、海外の方にどう認知されているのということをテーマに協議していただけると、ブランド力は上がっていくのではないかと思います。
農業振興課長	「えぞ但馬牛」と小麦のブランドである「はるゆたか」については様々な場面で同様のご指摘をいただいております。生産者に聞くとなかなか出荷する量が安定的でないという現実があります。ただ、今年度からは加工業者等に調整していただき、生ではありませんが、冷凍で例えばハンバーグといった形で多く供給できるような形に体制を変えていただいております。それを踏まえ、市民に限らず市外の方も購入できるように、ふるさと納税の産品として安定的に出せるようお力を借りているところです。それ以外ですと、観光協会や地域おこし協力隊でも、ブランドの紹介等やっておりますので、農産物の部分についても同様に発信できるように他課と調整しながら検討したいと思います。
会長	その他、38ページに記載されている計画の進捗管理についても意見を述べさせていただきます。前々回までの計画には進捗に係る具体的な数値は記載されていませんでしたが、目標値を立てた方が目標達成の度合いが高まるのではないかと期待を込めて、前回の計画から具体的な数値を記載していただくことにしました。この点に関しまして、今回も具体的な数値を記載すべきか、それとも数値を算出するのが困難であれば、矢印を上向きにする、角度を鋭くする、または二重丸で表現するなどといった方法で表現するか。こうした目標値の表示方法について、皆さまはどのようにお考えでしょうか。
西委員	目的によっては数値が出しやすいものもありますし、出せない部分もあるかと思いますので、出せない部分については別の形の表記をするのが良いと思います。
会長	この点について、次回の審議会までに検討していただければと思います。
会長	全体を通して何かございませんでしょうか。
西委員	文字や数字ばかりの計画になってしまうと見づらかったりすると思うので、皆さんに馴染みやすい、読んでいただけるような資料の作成を検討いただけたらと思います。
経済部次長	話は少し戻ってしまいますが「都市型農業」が「都市近郊型農業」になった件についてご説明させていただきます。農業振興計画の上位計画である江別市全体の計画、総合計画の策定時に同様の議論がされておりました。一般論として農水省の都市農業という定義はきちりしているかと思いますが、一般国民から見た時、また全国的な話で考えた時に、都市型農業というものは、大都市の中で農地があまりない、市街化が進んでいる中で小さな面積でも何かしらの作物を作ってやっている、また大消費地がすぐあるので地産地消にもなり、流通にも有利であるという定義がされている状況です。なので、その言葉をどうしようかと考えた時に、より分かり易いことを改めて定義した上で、今回の江別の総合計画の中では、「都市近郊型農業」という形にして、その説明書きを加えることになった経緯があります。それを踏まえて、個別計画である農業振興計画においても、「都市近郊型農業」の推進という形でご提案させていただきましたので、その点ご理解いただき、このテーマで計画を進めさせていただきたいと思っております。
会長	他に何かございませんでしょうか。
各委員	なし
会長	閉会のことば